



TITLE:

大量文献情報遡及変換入力システム研究会が開かれる

AUTHOR(S):

CITATION:

大量文献情報遡及変換入力システム研究会が開かれる. 静脩 1988, 24(4): 11-12

ISSUE DATE:

1988-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37002>

RIGHT:

館蔵本」, その五「不倒旧蔵本——早稲田大学図書館蔵本」などの項目を網羅している)があるの
で、興味をお持ちの方は参照されたい。

ところで、京都大学に納入された当時の「大惣
本」は次のように分類されていた——

- | | |
|----------------------|---------------|
| (1) 随 筆 | (19) 古 銭 書 |
| (2) 物 語 | (20) 随筆写本 |
| (3) 雑 書 ^甲 | (21) 蝦夷漂流記 |
| (4) 雑 書 ^乙 | (22) 故 事 記 |
| (5) 珍 書 | (23) 書 法 |
| (6) 唐 軍 | (24) 字 書 |
| (7) 絵本読本 | (25) 音 韻 |
| (8) 合 卷 | (26) 人物志万宝器物 |
| (9) 古版珍書 | (27) 農 書 |
| (10) 珍書草紙 | (28) 囲 碁 |
| (11) 地誌名所 | (29) 将 棋 |
| (12) 日記紀行 | (30) 写本随筆追加 |
| (13) 道 中 記 | (31) 絵本図絵 |
| (14) 香茶生花 | (32) 医 書 |
| (15) 茶 道 | (33) 西鶴・八文字屋本 |
| (16) 生 花 | (34) 写本台帳 |
| (17) 相 撲 | (35) 版本台帳 |
| (18) 諸礼并書簡 | |

分類の項目は以上ですべてではなく、ひきつづ
き例えば、「有職」,「仏書」,「經典及詩文」,「奇
談・怪談・故事」,「芝居物」,「吉原物」など古典
籍から庶民生活の末端にいたるまで広範な内容を
しめして、「俳書」,「連歌」,「追加」で終る。貸
本屋の商品ということでは大衆的な内容のものを
主体としていたには違ひなからうが、それでもこ

の時代の文化全体にかかわる「江戸のエンサイク
ロペディア」ともいっていい充実ぶりを示してい
るのがお判りいただけるだろう。

明治32年以降、きわめて簡略に記入された目録
が作成されているが、これは書庫における所在を
示すシェルフリスト的な役割りのものにすぎなか
った。「大惣本」と呼ばれるもののコレクション
としての価値はどうであるのか、ある書籍のそれ
ぞれの版本が江戸と上方に別れていた版元とどの
ようなかかわりをもって出版されたのか、もしわ
かればある一冊の書籍がどのような経緯で「大惣
本」に加えられることになったのか、その価格は
いかに低くであったのか、「大惣本」のなかにはか
なりの数の写本の存在が知られているが、それら
は大惣による収書の過程で偶然の結果として集
ったものなのか、コレクションの内容を充実させる
ため、意図的に写本を試みたものなのか、あるい
はよく知られた異版との比較、書き込み等の指摘
など——こういった出版史的あるいは書誌学的
な観点から、この貴重な文献群に対応することは
創設期にあって多忙をきわめた附属図書館には望
むべくもない作業であったにちがいない。従って、
昭和60年度から試みられた「大惣本」の調査、研
究にあたっては、できるだけこのような諸点を補
い、書誌学的な観点からの校訂、補註につとめた。
書名の単なる羅列ではなく、調査と研究を通じて
えられた書誌学的考察が加えられてきた。近くこ
の目録『京都大学蔵 大惣本目録』第一分冊(「随
筆」から「写本随筆追加」まで約1,230冊所収)
が刊行される予定である。

大量文献情報遡及変換入力システム研究会が 開かれる

現在、主として七大学が、共同で行っている
科学研究費(試験研究)による「大量文献情報遡
及変換入力システムの高度化に関する研究」の一
環として標記研究会が下記により行われた。

記

日時: 昭和62年12月23日(水)~24日(木)

場所: 京都大学附属図書館及び大型計算機セン
ター

日程：

12月23日（水） 於附属図書館 4階大会議室

13：30～15：00 発表・討論

「目録カードの自動項目分類システム」

富山大学工学部 吉田順作 米田正明

〃 長谷博行 酒井 充

12月24日（木） 於大型計算機センター

10：00～11：30 報告、見学

「京都大学における光ディスクを用いた図書
目録カードの格納・検索の実験」

京都大学大型計算機センター 星野 聡

〃 堀池博巳

そのうち本学大型計算機センター、星野教授による実験報告の概要を次に紹介する。

1. 実験の概要

京都大学附属図書館の総合目録は和、洋書カードを総合すると約500万枚を数え、そのうち昭和39年6月以前のは小型カードを使用していて、その数は約200万枚である。この小型カードは追加、修正を施すことなく昭和39年7月以降の標準カードと別置して利用に供している。その多く

は変色したもの或は印字が薄くなったものでコントラストは必ずしも良好ではない。このカード約1,000枚を対象にしてA4サイズの用紙に十数枚を縮小コピーした。見出しとして左上部分に最初と最後の読みの検索キーを付し、必要に応じて注記を加えた。格納・検索には情報検索システムFAIRS-1と、画像の格納・検索にELFを使用し、光ディスク装置は大型計算機センターで試験的に使用しているF6441B1型を用いた。

2. 実験の結果

オリジナルカードの品質を考慮に入れば出力されたコピーの品質は意外に良好で、判読に充分耐え得るものと思われる。しかしサンプルに用いた目録カードは約1,000枚に過ぎず、その検索効率を調べるには更に多くの件数を格納してみる必要がある。特に和書は書名の五十音順であるが、漢字により排列されているので、ある読みの範囲を指定したときに複数の目録コピーに分散する可能性があること等が、問題点として残り、今後の研究課題となろう。

外国学術図書の購入について

文部省では、近年における学術研究の急速な進展に伴い、国立大学図書館において、国際的に評価の高い外国学術図書の重点的整備を図るため、昭和62年度補正予算において、外国学術図書の購入費として特段の予算措置を講じ、本学にも約7430万円の予算配当がありました。

本学ではこれを受けて、9月9日に選書分担商議員会議を開き、当予算の趣旨説明を行い、次いで選書方針について審議され、各学部及び教養部に購入図書の推せんを依頼することになりました。その結果、12月9日に集計したリストを人文科学、社会科学、理・工学、医学・生物学、複合の5分野に分けて入札を行い、各業者と契約を結びました。現在、現物が続々と到着しています。冊数にして約8,000冊を数え、3月末までに納入が完了

する予定です。

《展 示 会》

「近世人の読書——大惣本をめぐって」
を開催

附属図書館では、昭和60年度から文学部日野教授に調査研究員を委嘱し、本館に所蔵している“大惣本。（本号記事「大惣本目録」の刊行について、参照）について調査・研究がなされてきたが、今回、約3分の1の図書について解題が出来、その目録が刊行されることとなりました。又、新入生に対し図書館の所蔵している貴重な資料の一端を紹介する意味も込め、下記により展示会を開催することになりました。多数ご覧下さるようお願いいたします。